

イタチ

イタチも皮は輸出され、リス、テン同様、筆などに使われるのは尾の毛に限られている。

イタチは北海道（移植）本州、四国、九州に分布する。

北海道には小型で白色のエゾイタチがある。牝は大きく牝は三分の二以下である。

本邦からの輸出の量は過去二十年間に年々二十万枚を上下すると云われる。

北米に産するミンクはイタチの一種で、高質な毛皮として扱われ本邦産はその代用品となるのである。

内地のイゾイタチは産量少なく、ヤマイタチも内地に産するが、その産地は高山に限り且つ稀である。

イタチの道切りという言葉があるが、山道で人の通る前を突然横切つて驚いている人をふりかえつて小手をかざして眺めるところなどは、全く人をコ馬鹿にしたとほげぶりである。また追ひつめられたイタチが危急存亡の時に放つ窮余最後の一発は実に驚くべき強力な威力を示す。談義も遂にとんだところまで来て仕舞つたので一応終結とする。

獣の名を十ほど隠した歌を一首

こりず二夜いも寝ずみしか君来ざる

うしやくまなき月のかねこと

(栗鼠、豚、猪、鼠、鹿、猿、牛、熊、狐、猫)